



産休サンキュープロジェクト・ニュースレター

2019年11月号

Vol. 13

3つの国から「ありがとう！」

現在、産休サンキュープロジェクトで支援している国は5か国です。そのうち、今号では、エスワティニ、ブルンジ、ナミビアの3か国の活動報告をお伝えします。



エスワティニの風景



ブルンジ

ナミビア

エスワティニ



「産休サンキュープロジェクト」とは

出産を機に、生まれたいのちと支えてくれる周囲の人に感謝し、日本で産休・育休を推進し、寄付によって 開発途上国の子どもとお母さんを支援し、一緒に子どもたちを育てていくプロジェクトです。

毎年4月・11月に発行されるニュースレターでは、ご支援いただいている事業報告のほか、親として共感できるような出産・育児の話、子どもを取り巻く保健リスク、日本での子育ての知識/子どものケガの手当と予防/疾病予防等を紹介していきます。

社内外のプロジェクト支援者への配布や、社内報等での啓発、あるいは貴社・貴団体のCSR活動報告等にご活用ください。



- 賛同企業 5社
(2019年11月現在)
- 住友商事株式会社
 - SCSK株式会社
 - ヤフー株式会社
 - 木村情報技術株式会社
 - 株式会社ローズマロウズ
- (賛同開始順)



賛同企業を募集中です。多くの企業の皆さまのご協力お待ちしております。

活動報告①

エスワティニ ～苦境に負けずポジティブに～

まずご紹介するのは、エスワティニ。「エスワティニ？どこの国？」と思われる方がいらっしゃるかもしれません。それもそのはず、かつてスワジランド王国と呼ばれていたこの国は、2018年4月、国王のムスワティ3世によって、現地語で「スワジの国」を意味するエスワティニ王国に改められました。

国土は日本の四国ほど、人口は約130万人とアフリカの中でも特に小さなこの国は、15歳以上のHIV感染率が27.4%(210,000人)と世界一高い国でもあります。14歳以下の子どもの感染率は2.8%(13,000人*)で、そのうち75%が抗HIV療法を受けています(2017年, SHIMS: スワジランドHIV発生率全国調査調べ)。年々、子どものHIV感染やHIV関連の死亡は減ってきているものの、毎年500人弱の子どもが命を落としています*。

日本赤十字社(以下、日赤)は、国際赤十字・赤新月社連盟(以下、連盟)を通じて、エスワティニ王国赤十字社のHIV/エイズ・結核診療所の運営を支援しています。1つは中部県のシゴンベニ診療所、もう1つは南部県のシレレ診療所。これらの診療所では、孤児や弱い立場にある子ども達をHIV/エイズや結核から守るため、学校での啓発活動、検査、カウンセリング、治療、感染者への食糧支援のほか、HIVに感染している子ども達のためにティーンクラブも運営しています。

子ども達はティーンクラブに月1回通って、薬の処方や心理的サポート、食糧や金銭的な支援を受けています。同じ境遇にいる、同じ世代の子ども達と交流し、時には直面している問題を発表し合うこともあります。

ここで紹介するウィ
ンディさん(仮名)

は、そのひとり。現在14歳で、シゴンベニ診療所のティーンクラブに通っています。

「わたしは両親を亡くし、祖母と姉妹とで暮らしているの。シゴンベニ診療所のティーンクラブに入ったのは12歳のとき。そこで初めて自分が飲んでいる薬が抗HIV薬だと知ったの。そして自分が生まれたときにHIVに感染して、薬を飲まなかったら具合が悪くなって死んでしまうことを教えられたわ。それまで祖母は真実を教えてくれなかったから、その時はショックだった。でも今は、同じようにHIVに感染している友達がいるから大丈夫。ティーンクラブの人たちのメッセージは“HIVに感染したのはあなたのせいじゃない、だけど薬を飲まないで死んでしまうのはあなたの責任よ”。具合が悪くなったら治療もしてくれて、自宅にも訪問してくれるのよ。豆や砂糖、油などの食料も持ってきてくれる。わたしはきちんと薬を飲んでいて、将来は看護師さんになりたい。病気の人を助けてあげたいから」と話してくれました。



衛生教育の啓発活動の一例
(ブスウェニ高校の女子学生を対象にして)

*国際赤十字・赤新月社連盟南部アフリカ地域事務所
2018年度アビール報告書調べ

続いては、ブルンジでの活動内容をご紹介します。ブルンジは、東アフリカ地域に位置し、自然災害や紛争が頻発するうえ、保健指数の低さや貧困率の高さ(人間開発指数は189か国中181位/2018年UNDP調べ)、エボラ出血熱などの感染症の脅威など、さまざまな課題を抱えています。日赤は2012年から、東アフリカ地域保健強化事業の支援対象国として、連盟を通じてブルンジ赤十字社(以下、ブルンジ赤)とともに保健と防災の啓発活動を実施しています。具体的にこれまで行ってきたのは、モバイルシネマとラジオ放送。「事前の備え・予防」の大切さを広めるために、まずは住民を惹きつけ、耳を傾けてもらうのがねらいです。

加えて今年からは、**住民からのフィードバック制度が始まりました。今後はコミュニティの選抜メンバーで構成された委員会が設置され、そこに住民からの意見や感想が集約される予定です。そこでは、ブルンジ赤への不平や改善してほしいことなどにも耳を傾けます。**委員会は現地語でムゴナ・イキ(Mugona iki)と呼ばれ“赤十字の活動・指針・プログラムについてあなたはどのように思いますか?”を意味しています。**委員会は、モバイルシネマやラジオ放送に加えて、赤十字とコミュニティとのコミュニケーションの新たな媒体となります。住民からのフィードバックを通じてブルンジ赤の活動や支援内容が改善され、結果的にブルンジ赤への信頼が高まることを目指しています。**

活動1：モバイルシネマ (移動式映画館)



モバイルシネマは、防災や保健に関するアニメ映画を村々を順番に回りながら野外で上映するもので、移動式映画館のこと。2018年度はブルンジ国内の10の州でモバイルシネマを実施しました。写真はルモンゲ州のモバイルシネマの様子。

活動2：ラジオ放送



ブルンジ赤は2つのラジオ局と契約し、いずれもネットワークはブルンジ全域に及びます。ラジオは毎週土曜日に放送され、保健衛生、防災、栄養改善、感染症予防などのトピックを扱っています。

活動3：フィードバック制度



“ムゴナ・イキ”設置に向け一歩前進。コミュニティ集会の様子。

インタビュー

モバイルシネマを運営するブルンジ赤のベネランドさんと、モバイルシネマに初めて参加したジャーニーンさんのインタビューを紹介します。

ベネランドさんはモバイルシネマの工夫について、ジャーニーンさんは率直な感想を伝えてくれました。

モバイルシネマのクイズ大会で見事優勝し、景品のラジオを受け取るジャーニーンさん(中央左)



ベネランド アンティクマナ
Venerand NDIKUMANA (ブルンジ赤支部コーディネーター)

～クイズの景品は意味があって選んでいるんだ～

僕たちが使うモバイルシネマの動画は、学校教育などを受けていない人でも学ぶことができるようにしています。

クイズの景品も、より多くのコミュニティのメンバーが参加してくれるよう工夫しています。また景品は、クイズの優勝者に自分の正しい回答を常に思い出させる“何か”でなくてはなりません。例えば、ラジオを景品にするのは、ブルンジ赤が毎週土曜日に行うラジオ番組の視聴を促すためですし、景品をせっけんにする場合には、手洗いの習慣を促すためなのです。

ジャーニーン アンティランデクラ
Jeanine NTIRANDEKURA (クイズ優勝者)

～これからラジオを使って情報を広めたいわ～

近所の人は、モバイルシネマから多くのことを学べるってよく話していたけど、私はいつも本当かなと思っていました。ラジオをもらったので、ラジオから流れる有益な情報を近所の人たちに広めて、私たちの自助力(レジリエンス)を高めていくことを約束するわ。

赤十字には、このような機会を増やしてほしいと思います。一度に多くの人を取り込めるし、みんなの役に立つ情報を復習できますよね。

ナミビア ～新たなプロジェクトの始動～



最後は、ナミビアからのご報告です。ナミビアの国名は世界最古の砂漠の一つといわれるナミブ砂漠に由来しており、先住民の言葉で「なにもない」。国土は日本の約2.2倍、人口は約253万人で世界で最も人口密度の低い国の一つです。

ナミビアは、世界で最もHIV感染率が高いサブサハラ地域に属し、エスワティニなどとともに2011年から南部アフリカ地域感染症対策事業の対象国となっています。HIV感染率は12%、毎年エイズ関連の病気で2,700人が亡くなり（そのうち500名が子ども）、現在孤児となった子どもの数は34,000人に上ります。

日赤が、連盟を通じて支援するナミビア赤十字社（以下、ナミビア赤）は、HIV孤児などを対象としたキッズクラブの運営、学用品や生活用品の配付、青少年に対するHIV/エイズについての啓発活動や性教育、HIV感染者や貧困層の家庭訪問を行っています。今回は、現地から届いた家庭訪問のエピソードと、新たなプロジェクトの試みについて紹介します。



月キッズクラブの一コマ。ダンスを披露する子ども達

活動1：菜園運営プロジェクト



点検中

概要

シャマリンディHIV孤児菜園プロジェクトは今年から始まりました。日赤からの資金とともに、ナミビア赤が資材や用具を用意して、地元の小学校の敷地内に保護者や教員、ナミビア赤スタッフ総出で菜園の囲いを作り、種まきをしました。

効果

このプロジェクトを通じて期待される効果は、子ども達への農業教育。種まき、移植、草取り、水やり、害虫対策などを実践を通じて学びます。また、収穫された野菜は、スープなどに調理され子ども達に提供されます。



水やりの様子



収穫した野菜でスープが完成！

課題と対策

当初は、保護者の水やりの負担や鳥が野菜を食べてしまう、害虫の被害などの課題がありました。今は、水やりを当番制にする、ビニール袋や缶などをつるして鳥対策をする、殺虫剤をまくなどの取組で、課題は解決しています。

活動2：家庭訪問

配付する生活用品（トイレットペーパーや石鹸など）は世帯ごとに分けてビニール袋へ。準備ができれば出発！



生活用品を配付の様子

何をしているの？

HIV患者の家庭訪問では、ボランティアは受益者がきちんと治療を継続しているかをチェックしたり、生活用品を配達したりしています。



ほかにも・・・

この家庭訪問では、受益世帯から3名の女性（中央）が調理用オイルや古着を受け取りました。





あかちゃんと触れあうことの大切さ 「タッチケア」

「タッチケア」を皆さまご存知でしょうか？東京慈恵会医科大学 名誉教授・小児科医前川喜平先生、若楠児童発達支援センター長・小児科医橋本武夫先生をはじめ、助産師・看護師・保育士など様々な職種が中心となり 1998年10月に「日本タッチケア協会」が設立されました。より良い親子関係の確立と子どもの健全な育成、育児支援を目的とし、「タッチケア」を推進しています。

タッチケアって??

- 「タッチケア」は、あかちゃんと親が見つめ合い、語りかけながら、親があかちゃんの素肌にしっかりふれる、なでる、少し圧をかけながらマッサージする、手足を曲げ伸ばしするなどのケアを行います。新生児集中治療室（NICU）から始まった「タッチケア」ですが、あかちゃんだけでなく年齢を問わずに誰にでも実施できます。
- 心地よい刺激になるといわれており、あかちゃんの神経の発達を促し、情緒を安定させる効果が期待されています。



タッチケアを行う時のポイント一例

- あかちゃんへ話かけながら、優しく体に手をのせることから始めます。
- あかちゃんの気持ちよさそうな部位を探し、「手だけ」「足だけ」などと部分的にマッサージを行ってもよいです。
- あかちゃんの声の反応に、「うんうん」「そうなの」などと話しかけることが大切です。



釧路赤十字病院でのタッチケア教室の様子



【情報提供：釧路赤十字病院】

釧路赤十字病院では、タッチケア教室を開催しています。育児中の母児が集まって、一緒にタッチケアを行い、親子がふれあう機会、交流の場となっています。

釧路赤十字病院

検索

産休サンキュープロジェクトに関するご意見・ご要望をお寄せください。特に、ニュースレターの内容については、参加企業・団体の皆様とのコミュニケーションツールとなりますので、ご提供いただける情報、どのような情報がお知りになりたいか、素朴な疑問からご感想まで、是非、皆様の声をお聞かせください。また、ニュースレターは、以下のリンクからもダウンロードできます。

<http://www.jrc.or.jp/activity/international/document/#産休nl>

【お問い合わせ】 日本赤十字社 国際部 開発協力課 産休サンキュープロジェクト担当
電話：03-3437-7089 Eメール：sankyuthankyou@jrc.or.jp

